

[ my second home ]

Word: ただきち / music: ○○○○○○○○

はじめてはひとりで  
電車ゆられ窓の外  
「新鮮だね、景色が。」  
胸中に響く

降りた停車場そば  
風が爽やかで  
夢のようだった 眺める景色  
それだけでよかったんだ  
多くは求めないから

空の色のよう 青くきれいだね空気が  
ここにいる素晴らしいさをすぐに  
誰かへ伝えたい  
静かだねここは 少し静れてる街だね  
暖かい人たちの目 光満ちてる

ずっと来れるよね この街はずっと  
変わらないで

頑張れと元気を充填して  
くれたようだった  
街歩いただけでも楽しい時間だった  
何気ない会話してるだけだった  
何も変なコトをしてはいらないよ  
けれど何故だろうまぶたには  
あふれる 光るものが  
一度で終わりじゃないけれど  
次はいつだろう  
やっぱりこの場所へ来れる  
今日よりももっとやっぱり  
頑張ってる生きていく元気もっともらいたい  
いつまでも  
きっと来れるよね この街はずっと  
変わらないで

高らかな叫びで  
言えるはずだ この場所で  
故郷のようだ、  
またここへ「帰ろう」。

街は変わらない ずっと変わらないように  
今自分訪れてるままで迎えてほしいな  
「優しさ」をここでずっと忘れることなく  
見せたこの涙の数 無駄にしないよ  
空の色のよう 青くきれいだね空気が  
ここにいる素晴らしいさをすぐに  
誰かへ伝えたい  
またここへいつか帰ると伝えて通る  
改札口が涙で 霞んで見えた

[ Best friends ]

Word: ただきち / music: ○○○○○○○○

枯葉空に舞う季節を  
一人ぼんやり眺めていた  
空が暗くなってくまでには  
そこに降り立とうか  
気付かずに離ればなれに  
それぞれの道を行んで…  
窓から見える霞んだ景色  
まっすぐに続くヘッドライト  
空いてるバスの一着うしろに  
一人ぼんやり座った…  
都会を遠ざかる車窓から  
眺める野焼きの赤い炎たちが  
草原焼けてる懐かしい薫り  
ここでよく遊んだよね…

バスを降り少し歩いた  
魔校の母校眺めた…  
もう学ぶことはない教室や  
朽ち果てたベンチ  
もう今はつかわれない机  
あの日の事が蘇ってきてる  
今は戻れない青春  
点滅する信号 車は通らない  
家路を伝って電灯探す  
今は会えないかもしれないけど  
いつか会える日が来ることを  
願った 神社の鈴鳴らして  
「さっと、会いましょう。」と

奇跡の出会い、忘れていない。  
楽しかったあの日の事とか  
連絡取れない 自分だけかな  
会いたい、私のBest friends